

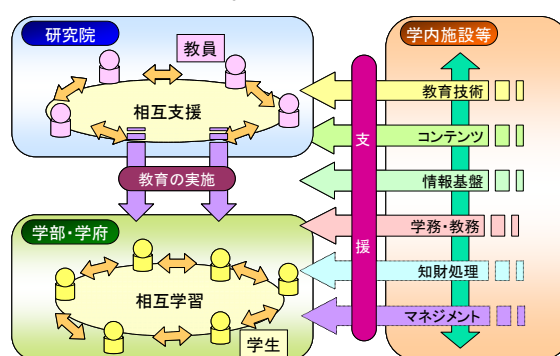
# 『e ラーニング支援室』の設置について

井上 仁<sup>†</sup>

## 1 はじめに

情報基盤センターの学内向けのサービスの一つに、教育の情報化とその支援があります。従来からのサービスであった授業等で利用する PC やホスト計算機、メールシステム等の利用環境の提供に加えて、近年ではコース管理システム WebCT[1]や VOD システム[2]等のいわゆる e ラーニングシステムを導入し、サービスを提供しています。

e ラーニングを始めとする情報通信技術を利用した教育、いわゆる教育の情報化が組織的に実施され成功するためには、単に個々のサービスを提供するだけではなく、右図に示すように、教育の実施部局と学内の教育を支援する組織との連携と協力が必要です。さらには、教育を支援する組織間の連携と協力が必要です。しかしながら、教育の情報化のための学内支援体制は十分といえないのが現状です。



学内教育支援体制の概念図

そこで、e ラーニングに関する学内支援を強化するために、情報基盤センター内に「e ラーニング支援室」を設置しました。本支援室は「e ラーニング」という名称をつけていますが、情報通信技術を利用した新しい教育全般を対象としています。

## 2 e ラーニング支援室概要

今回設置した e ラーニング支援室は、「支援業務」そのものと支援を行うための物理的な「施設」の二つの側面があります。「支援業務」は本支援室を設置する以前からすでに実施していた支援内容を今回拡大し明確にしました。「施設」は新たな支援に対応するための物理的な空間となります。

### 2.1 施設概要

e ラーニング支援室は、情報基盤センターの2階にあり、基本的に平日 10 時から 17 時まで開室しています。

この施設では、コンテンツ作成のための機材の貸出し、コンテンツ作成のための場の提供、小規模な講習会・セミナーの開催、e ラーニングに関す



e ラーニング支援室 (イラスト提供：株式会社 内田洋行)

<sup>†</sup> 九州大学情報基盤センター jin@cc.kyushu-u.ac.jp

る書籍や資料の公開，コンサルティング，教職員のコミュニティの場の提供を行っています。

## 2.2 支援業務概要

「支援」といった場合，一般には，(1)高度な技術が必要な専門的な業務を遂行する，(2)業務自体は単純であるけれど生産性を高めるために一括集中して業務を代行する，(3)各組織が専門的な技術を身につけ成長するための支援を行う，等の形態が考えられます。

e ラーニング支援室で対象にしている支援の多くは(3)に該当します。e ラーニングに限らず新たな技術を導入する場合は(1)のような支援体制が必要ですが，情報通信技術を利用した新たな教育においては，教育実施の主体となる部局の教職員がある程度の専門的な技術を身につける必要があると考えています。もちろん将来的には，(2)を実施する支援組織が学内に必要になります。

すなわち，e ラーニング支援室では以下の業務を行います。

- ・ コンテンツ作成のための機器の貸出しと場所の提供
- ・ 教育研究情報公開のための事業支援
- ・ e ラーニング技術の普及ならびに活用支援
- ・ 国内外の e ラーニング動向調査と情報提供

### ■ コンテンツ作成のための機器の貸出しと場所の提供

講習会や授業を録画し，ストリーミング配信あるいは VOD で配信するためには，録画のための機材，編集機器，配信サーバが必要になります。

e ラーニング支援室では，ビデオカメラ，ビデオスイッチャー，RGB スwitchャー，音声ミキサ，CAC (Contents Auto Creator)[2]，各種ケーブル等の機材の貸出しと利用に関するサポートを行っています。また，HelixServer や MediaBase による配信も行っています。



### ■ 教育研究情報公開のための事業支援

自由で制限のない「知」へのアクセスを促進することを目的にしている OCW(Open Course Ware)プロジェクトが，世界規模で進行しています。九州大学でも，本学で開講されている授業のシラバス・カレンダー・授業資料等を公開する九大 OCW 事業を開始しました[3]。e ラーニング支援室では，九大 OCW の企画・運営・Web サイトの管理を支援しています。

また，VOD サーバによる教育研究情報発信事業も支援しています。

### ■ e ラーニング技術の普及ならびに活用支援

教育の情報化が組織的に実施され成功するためには，教育の実施部局と学内の教育を支援する組織との連携と協力が必要です。教育支援としては，情報通信基盤技術，コンテンツ作成，情報通信技術を活用した教育手法，学務・教務システム，知財処理，マネジメント等があります。e ラーニング支援室では，主に情報通信基盤技術の提供と技術指導を対象として

います。なお、他に関しては非専門ではありますが、蓄積した経験に基づく簡単な助言は可能と考えております。

具体的には、部局における e ラーニング実施のためのコンサルティング、コンテンツ作成のための技術支援、講習会の開催、部局のファカルティ・ディベロップメントの企画や講演等を行っています。

## ■ 国内外の e ラーニング動向調査と情報提供

国内外の大学等で実施されている e ラーニングの動向調査と情報提供のために、各機関が発行している資料を収集し閲覧できるようにしています。また、e ラーニングに関する研究会・学会・研修会・展示会等が開催されていますが、日程の都合や遠方で開催されるために参加できないことがあります。そこで、e ラーニング支援室で収集した資料を閲覧できるようにしています。



また、学内で実践されている e ラーニングの事例を学内外に紹介していきます。

## 3 支援の例

ここでは、情報基盤センターが過去に実施してきた支援業務で e ラーニング支援室の対象となるものや現在支援を行っているものをいくつか紹介します。

### VOD 配信支援

研究戦略企画室の企画による 21 世紀 COE プログラム拠点形成発表会の VOD 配信に対して、機器の提供と技術支援、発表会当日の技術補助、VOD サーバによるコンテンツ配信を行いました。なお、撮影とコンテンツ作成のための人件費等は、主催者側で負担していただきました。

研究戦略企画室の企画による日本学術振興会特別研究員説明会の VOD 配信に対して、機器の提供と技術支援、事前準備、VOD サーバによるコンテンツ配信を行いました。撮影とコンテンツ作成のための人件費は、主催者側で負担していただきました。

総合理工学研究院の主催による総理工セミナーの VOD 配信に対して、機器の提供と VOD サーバによるコンテンツ配信を行いました。本支援では、セミナー開催時には機器の貸出しのみを行い、総合理工学研究院のスタッフにより撮影・編集をしていただきました。

### ファカルティ・ディベロップメント(FD)での講演

総合理工学府の FD において、九州大学における e ラーニングの実践事例について講演しました。また、システム情報科学府の FD においては、九大 OCW に関して説明しました。ある学部の次回開催の FD で e ラーニングを話題にする予定であり、現在準備をすすめています。

### 「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」への参加

平成 16 年度の文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択された「WBT による医療系統合教育」プロジェクトに参加し、e ラーニング実施を支援しています。

### 「魅力ある大学院教育」イニシアティブの支援

平成 17 年度の文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択された総合理工学府の「ものづくり型実践的研究人材の戦略的育成」プロジェクト実施において、e ラーニング実施のための支援を行っています。

### WebCT 導入支援

各部局における WebCT の組織的な導入にあたって、導入のためのコンサルティング、講習会の開催、コンテンツ作成の助言等を行っています。個人的に WebCT を利用される教員に対しても、単なる操作方法の説明だけではなく、実践事例の紹介や授業において効果的な利用法の提案等を行っています。

### システム導入支援

学内の各種教育支援のためのシステムの導入にあたり、技術的な助言等を行っています。

## 4 おわりに

本稿では、情報基盤センターに新たに設置した e ラーニング支援室について簡単に紹介しました。e ラーニング支援室は業務を開始したばかりですが、学内の教育の情報化に少しでも役に立ててればと考えています。Web サイト(<http://el.cc.kyushu-u.ac.jp/>)でも、さまざまな情報を提供していますので、ぜひご覧ください。また、情報基盤センターにお越しの際には、ぜひ 2 階の e ラーニング支援室にもお立ち寄りください。

## 参考文献

- [1] 特集「e ラーニングシステム WebCT ー導入と利用の展開ー」, 井上仁, 九州大学情報基盤センター広報学内共同利用版, Vol.3, No.2, 2003.
- [2] 「Contents Auto Creator による VOD コンテンツ作成と MediaBase による配信」, 井上仁, 多川孝央, 九州大学情報基盤センター広報学内共同利用版, Vol.5, No.3, 2006.
- [3] 九州大学 OCW <http://ocw.kyushu-u.ac.jp/>